

国内最大手アセトアミノフェン(風邪薬成分)メーカーの山本化学工業が、安価な中国産を水増し混入

暑い日が続きます。

この時期に体調を崩し、風邪をひいて高熱を発生し「しばらく見かけないな」と思っていたら突然の訃報ということがまます。

多くの風邪薬で使われている解熱鎮痛剤のアセトアミノフェン(AA)は歴史の古い、広く安定して使われる、緩やかな効き目の薬剤です。

製造は国内最大手の原薬メーカー「山本化学工業」(和歌山市)で、薬局・薬店ではよく知られています。

その「山本化学工業」は自社で作ったアセトアミノフェン(AA)に安価な中国製AAを無届けで混ぜて水増しし、製薬会社に出荷していたことがわかりました。

厚生労働省は5月に立ち入り調査(医薬品医療機器法違反)を実施。指導権限を持つ和歌山県が近く処分する方針です。

民間調査会社によると、国内でAAを

製造しているのは2社で、「山本化学工業」が国内シェアの約80%を占めています。

AAを仕入れた製薬会社が調合して風邪薬をつくり、病院で渡される薬や市販薬として広く販売しています。

厚労省の立ち入り後、「山本化学工業」はAAのほか全製品の出荷を自粛している。

関係者によると「山本化学工業」は、米国産の原料などを使い、和歌山市内の工場でAAを製造しています。

しかし、これとは別に中国で作られた安価なAAを輸入し、自社で作ったAAに混ぜて出荷していたという。費用を削減し、生産量上げるためとみられます。

「山本化学工業」の関係者は「少なくとも数年前から、中国製を1~2割混ぜていた」と話している。

◆心配なのは「アセトアミノフェン」の品質だ。

